

## 平成 27 年度全国学力・学習状況調査結果

● 問合せ 学校教育課 (☎3185)

4月21日に実施された平成27年度全国学力・学習状況調査の結果が、文部科学省から公表されました。市の概況についてまとめましたので紹介します。なお、本調査結果については、市内の各小・中学校において分析し、課題を明らかにして具体的な対応策を考え、全職員の共通理解のもとで実践に移しています。

### 調査内容

#### ■ 学年・教科など

- ▷ 小学校 第6学年：国語A、国語B、算数A、算数B、理科、質問紙（生活・意識など）
- ▷ 中学校 第3学年：国語A、国語B、数学A、数学B、理科、質問紙（生活・意識など）

#### ■ 設問内容（AとBの違い）

- ▷ A（知識）：身に付けておかなければ、あとの学年で影響を及ぼす内容、実生活において不可欠である知識・技能など
- ▷ B（活用）：知識・技能などを実生活で活用する力、課題解決のための構想を立てて実践し、評価・改善する力など

### 調査結果

#### 1 学力調査（平均正答率）

【下表：市の記号説明】

▷ 全国との比較（左側：桃色枠） ◎：上回っている ー：同程度 △：下回っている

▷ 県との比較（右側：白枠） ○：上回っている ー：同程度 ▲：下回っている ※ 同程度とは0.4%以内の開き

##### 小学校（第6学年）

	国語		算数		理科
	A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)	
全国	70.0%	65.4%	75.2%	45.0%	60.8%
県	70.4%	64.6%	74.6%	43.7%	61.0%
市	◎	○	ー	○	ー

市は、全国と比べると、国語Aと算数Bが上回り、そのほかは同程度でした。県と比べると、国語Aと国語B、算数Bが上回り、そのほかは同程度でした。

##### 中学校（第3学年）

	国語		数学		理科
	A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)	
全国	75.8%	65.8%	64.4%	41.6%	53.0%
県	73.9%	63.3%	61.7%	38.6%	49.6%
市	△	▲	△	▲	△

市は、すべての教科区分で、全国・県を下回りました。特に、理科は、知識・活用ともに大きな課題がありました。領域別では、国語は『書くこと』、数学は『図形』に大きな課題がありました。

#### 2 質問紙（生活・意識）調査

##### 小学校（第6学年）

#### ▷ 全国・県との比較で良好だった項目

- ・ 毎日同じくらいの時刻に寝たり起きたりしている。
- ・ 学校図書館や地域の図書館に行っている。
- ・ 地域の行事に参加している。

#### ▷ 全国・県との比較で課題がある項目

- ・ 友達の前で自分の考えや意見を発表することが不得手。
- ・ テレビの視聴時間が長い。
- ・ 平日や土・日曜日の勉強時間（塾を含む）が少ない。

#### 【学校の授業以外の1日の勉強時間（塾を含む）】

	平日		土・日曜日	
	1～2時間	2時間以上	2～3時間	3時間以上
全国	37.0%	25.7%	12.6%	11.9%
県	39.0%	20.7%	13.1%	8.9%
市	39.7%	16.6%	11.3%	7.4%

##### 中学校（第3学年）

#### ▷ 全国・県との比較で良好だった項目

- ・ 将来の夢や目標を持っている。
- ・ 地域の行事に参加している。

#### ▷ 全国・県との比較で課題がある項目

- ・ 地域や社会で起こっている問題や出来事への関心が薄い。
- ・ 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことを難しいと思う。
- ・ 平日や土・日曜日の勉強時間（塾を含む）が少ない。

#### 【学校の授業以外の1日の勉強時間（塾を含む）】

	平日		土・日曜日	
	1～2時間	2時間以上	2～3時間	3時間以上
全国	33.3%	35.7%	24.0%	17.7%
県	36.6%	30.1%	25.0%	12.8%
市	38.6%	21.0%	21.3%	5.1%

#### 3 今後も市として力を入れていくこと

#### ■ 授業改善と学習内容の定着

- ▷ 基礎基本のさらなる定着に向け、調査結果を分析し、各学校の児童・生徒の課題や実態に応じた授業づくりに努める。
- ▷ 知識・技能などを活用する力や、思考力・判断力・表現力を高める指導の充実に努める。
- ▷ 児童・生徒の学ぶ意欲を高め、主体的・協働的な学習を推進する。

#### ■ 学習・生活習慣の改善

- ▷ 学習内容の定着につながる、授業と結び付けた効果的な家庭学習を推進する。
- ▷ 『テレビ消し 早寝 早起き 朝ごはん』のスローガンのもとに、中学校区ごとに小・中共通した約束ごとを決め、学習・生活習慣の確立を図る。
- ▷ 『家読』や『朝読書』を推進することにより、読書に親しむ機会を増やし、読書の習慣を身に付け、読解力を育むとともに、家庭団らんの一助とする。

※ 本調査は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものです。

みんなで  
考えよう  
同和問題  
No. 219

このコーナーでは、隔月のシリーズで掲載  
しています。これを手がかりに、家庭で人権・  
同和問題について話し合ってみましょう。

相手の心を思う

人間に一番近い動物はチンパンジーだと言われます。約700万年前にチンパンジーとの共通祖先から分岐し、人類は誕生しました。お互いのDNAはわずかに1割しか違わないようですが、その違いには大きいものがあります。

京都大学霊長類研究所で行われたチンパンジー2匹による実験の結果を紹介します。チンパンジーAの檻の前には長い棒を置き、チンパンジー

洗練された舞いで参観者を魅了

愛宕権現神社秋まつり『府招の浮立』

10月11日、南波多町で『府招の浮立』がありました。これは、毎年10月の第2日曜日に愛宕権現神社秋まつりに奉納されているもので、浮立の形態は、府招上公民館から神社までの『道行き』と、神社広場や籠堂で行う『本浮立』で構成されています。

Bの檻から少し離れたところにジュースの入った容器を置きます。するとジュースを飲みたいBは棒を渡すように要求し、Aはそれに応じます。Bは手に入れたジュースを自分だけおいしそうに飲んでしまいました。さて、この実験を繰り返すとどうなるでしょう。前回と同じくBが棒を要求し、ジュースを手に入れて飲んでしまいます。

されなくても棒を渡す、あるいは棒を借りたお札にジュースを少し分けてあげるのではないのでしょうか。チンパンジーは自ら進んで協力することはありませんが、人間は自発的に協力しますし、協力しなければ、過酷な自然環境を生き延び生命をつなぐことができなかつたと考えられています。そのために、相手の心を汲み取る能力が発達したのではないのでしょうか。人類の長い歴史の中で培われてきた『心遣い』、『思いやり』の心を大事に育み、一人一人の心に思いを馳せながら、誰もが幸せに暮らせる地域社会づくりに努めたいものです。

道行きのあと行われた本浮立では、33演目のうち15の演目が披露され、多くの参観者でにぎわいました。

府招の浮立は、昭和43年に県重要無形民俗文化財に指定され、昭和62年に記録措置を講ずべき無形民俗文化財として選択されています。



↑華やかな衣装を身にまとい、踊りながら愛宕神社まで『道行き』する子どもたち

郷土の文化財

伊万里・鍋島ギャラリー所蔵 初期鍋島特集①

● 問合先 生涯学習課文化財係 (☎233186)

色絵杜若文三足付皿

鍋島焼とは、江戸時代に佐賀藩鍋島家が將軍への献上や、幕閣・大名・公家への贈答のために特別あつらえて作っていた最高級磁器のことで、『鍋島』とも呼ばれます。

特徴です。

ただ、色絵が染付の輪郭の中に正確に描かれている反面、輪郭線の濃淡はむらがあります。1700年代以降になると、線の濃淡は安定することから、初期鍋島では、輪郭線へのこだわりがそれほど強くなかつたと考えられます。

また、器が全体的に偏平な形で、後世に作られた鍋島焼と比較すると浅いことも、初期鍋島であることを物語っています。

鳥の作品を紹介します。

写真(下)の作品は、1670年〜1680年代に作られたものです。皿の口径は27・7センチメートルで、文様の杜若の葉が伸びやかに描かれているのが



『色絵杜若文三足付皿』